

Ⅱ 地域特性と公共交通の現状整理

1. 小牧市総合交通計画の進捗状況

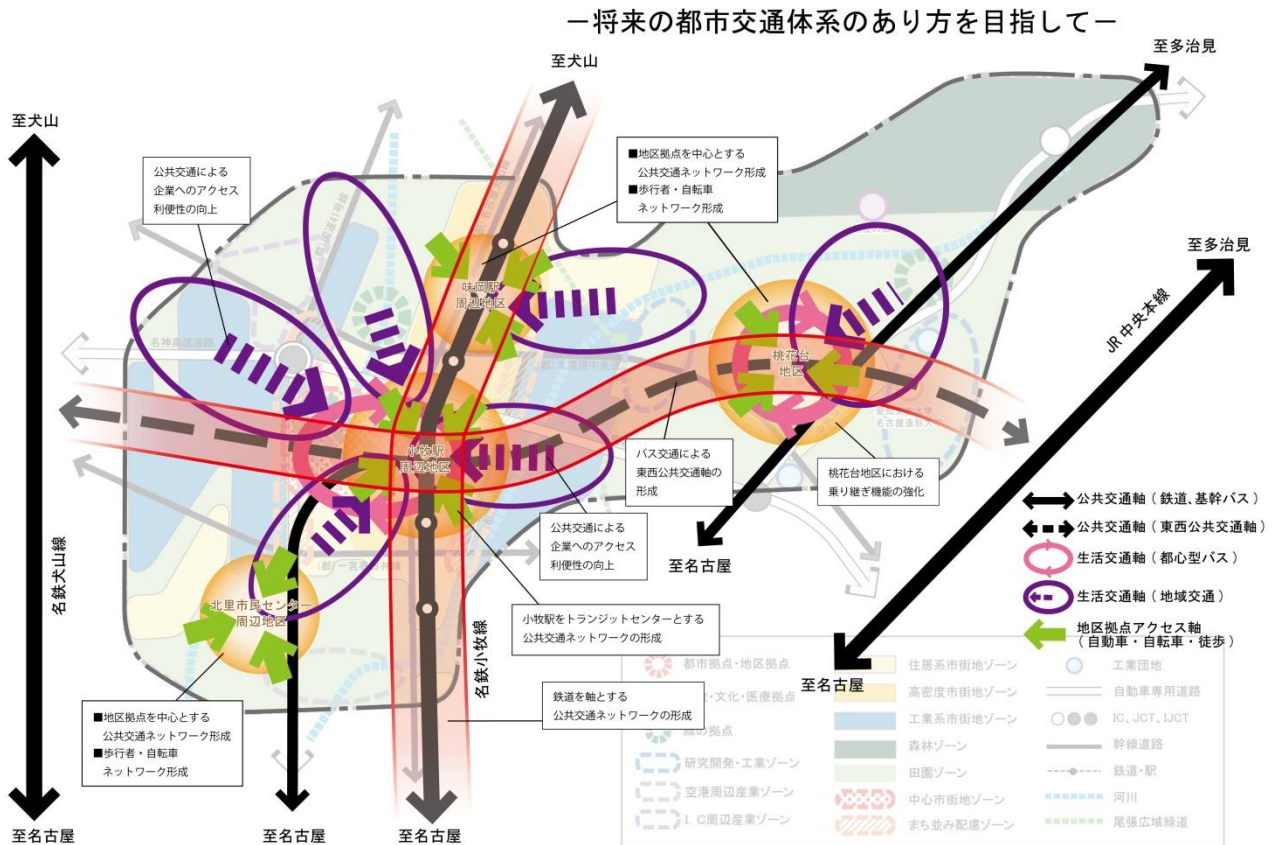
(1) 小牧市総合交通計画の概要

小牧市総合交通計画では、小牧市が目指すべき将来像の実現に向け、中心市街地をはじめとする集約拠点の形成を支える公共交通を軸とした都市総合交通体系の確立とこれを具現化する個別の都市交通政策を施策パッケージとして示すとともに、これらの施策の実施により市民が享受できる効果を示しています。

表 小牧市総合交通計画の概要

計画名	計画期間等	基本理念と将来像
小牧市総合交通計画	平成 23～32 年度	【都市交通体系構築の基本理念】 地域の活力を育み、地域が支える持続可能な交通体系 【将来像】 1. 小牧市の一体化を促進し、活力あるまちづくりを支える交通体系 2. 持続可能な交通体系 3. 地域が支える交通体系
地域公共交通関連施策		
公共交通計画	【基本目標】 1-① 周辺都市及び市内の拠点相互の連携強化に資する交通体系の構築 1-② 中心市街地の活性化を支援する交通体系の確立 1-④ 産業拠点形成を支援する交通体系の構築 2-② 経済的に維持が可能で、安定的・持続的な交通サービスが提供できる交通体系の構築 2-③ 高齢者や障がい者等の移動制約者を含む全ての人が利用しやすい交通体系の構築 3-① 行政による必要最低限の交通サービスの提供 3-② 地域の特色を踏まえた交通体系の構築	
交通結節点計画	【基本目標】 1-③ 集約型市街地形成を支援する交通体系の構築 2-③ 高齢者や障がい者等の移動制約者を含む全ての人が利用しやすい交通体系の構築	
交通需要管理計画	【基本目標】 2-① 自動車交通に偏りすぎない環境にやさしい交通体系の構築	

図 将来の都市交通体系



（資料：小牧市総合交通計画）

(2) 重点プロジェクトの進捗状況

小牧市総合交通計画における施策パッケージをとりまとめた重点プロジェクトのうち、公共交通に関連する事業について進捗状況をまとめます。なお、各重点プロジェクトについて、該当事業の達成状況を以下のとおり、3段階で評価します。

【重点プロジェクト】

- ①東西公共交通軸や基幹バスについては、高い運行頻度や速達性・定時性の確保、高い品質のサービス水準の確保を図る。
- ②小牧駅においてトランジットセンターの整備を進める。(異なる交通機関相互の円滑な乗り継ぎ機能を有した交通結節点としての機能強化を図る。)
- ③桃花台地区においてトランジットセンターの整備を進める。(高速バスや基幹バスとの結節点としての機能強化を図る。)
- ④名鉄小牧線各駅(小牧駅を除く)において交通結節機能の強化を図る。
- ⑤中心市街地を歩いてまわることができる、安全で快適な歩行者・自転車の移動空間の整備を進める。
- ⑥自発的な行動の変化を導くため、コミュニケーションを中心とした交通施策であるモビリティ・マネジメントを展開していく。
- ⑦地域住民の参画による、地域住民の生活ニーズに応じた巡回バスの見直し及び評価を実施する。
- ⑧地域住民の参画による、デマンド運行等地域独自の交通システムの試験的導入を実施する。

※重点プロジェクト⑤は、「歩行者・自転車交通計画」であるため、実施状況は省略します。

【該当事業の達成状況について】

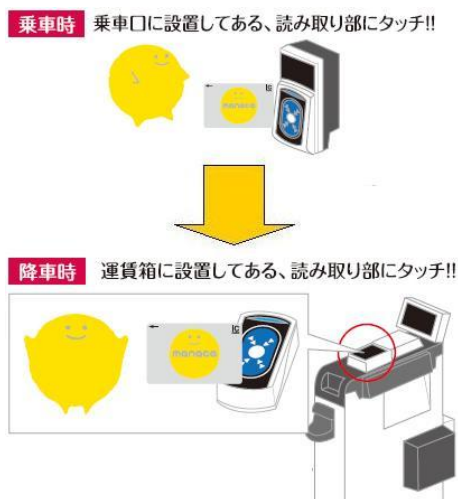
各重点プロジェクトについて、該当事業の達成状況を以下のとおり、3段階で評価します。

<達成状況の凡例>

- ◎：小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施した。
- ：小牧市総合交通計画で定めた事業内容を一部変更して、実施した。または継続して実施中である。
- △：小牧市総合交通計画で定めた事業内容のとおり、事業を実施できていない。

重点プロジェクト名	東西公共交通軸や基幹バスについては、高い運行頻度や速達性・定時性の確保、高い品質のサービス水準の確保を図る。
基本目標	周辺都市及び市内の拠点相互の連携強化に資する交通体系の構築
基本方針	鉄道を軸とする公共交通ネットワークの形成 バス交通による東西公共交通軸の形成
事業実施状況	- 中央道桃花台バス停前ロータリー等を整備するとともに、こまき巡回バス停留所を設置し、こまき巡回バスと高速バスの乗り継ぎ利便性を強化した。 - こまき巡回バス（地区内幹線系路線）は小牧駅へのアクセスと概ね1時間に1本の運行（運行間隔）を確保した。 - ピーチバス（小牧市役所前～小牧駅前間）を増便した。 - 名鉄バス路線へのICカード、バスロケーションシステムを導入した。 - 名鉄バス停留所（桃花台センター、小木バス停）を改修した。
達成状況	○
施策実施の効果 ・達成できない理由	増便によるバス運行の強化や、ICカード等の導入が達成できていない路線がある。
今後に向けた課題 ・取り組み内容	利用者ニーズに合わせた運行本数の設定を行う。 サービス水準の確保を図るため、公共交通利用促進協議会と連携し、利用促進を継続的に実施する。 名鉄バス路線以外のバス路線へのICカード、バスロケーションシステム導入の検討や、待合環境の改善等を実施する。

図 ICカードの使い方



(資料：名鉄バスホームページ)

図 ピーチバス再編時の回覧資料

**4/7（月）ダイヤ改正
ピーチバスが変わります！**

小牧駅と桃花台ニュータウンを結ぶ『ピーチバス』について、次のとおり、平成26年4月7日（月）にダイヤ改正を行います。

ピーチバスは、桃花台住民の皆さんの重要な交通手段として運行しておりますが、運行開始以来、利用者は減少傾向にあり、市から補助金の交付を受けるなど、路線の維持が非常に厳しい状況にあります。

皆さんの足を守るためにも、ぜひともピーチバスをご利用していただきますようお願いいたします。

① 桃花台 ⇄ 小牧市役所前を毎時1往復（平日9時台～16時台）運行します！

- ◆市役所、市民病院へのアクセスが向上します。
- ◆市民病院へお越しの方は、「メナード美術館前（市民病院前）」バス停をご利用ください。
- ◆運行の、桃花台⇄小牧市役所前（朝2便）、小牧市役所前⇄桃花台（夕2便）は引き続き運行します。

② コースを単純化（終日循環コースで運行）します！

- ◆コースの単純化に伴い、「桃陵中学校前」「桃ヶ丘2丁目」「第二公園前」バス停が廃止となります。（※裏面コース図参照）

③ 総運行本数は変わらず！（減便なし！）

改正時刻表は、3月中旬頃に、ピーチバス車内、市役所、東部市民センターなどに設置します。

お問い合わせ先
小牧東部事務所 TEL (0568) 79-6464

重点プロジェクト名	小牧駅においてトランジットセンターの整備を進める。 (異なる交通機関相互の円滑な乗り継ぎ機能を有した交通結節点としての機能強化を図る。)
基本目標	集約型市街地形成を支援する交通体系の構築
基本方針	地区拠点を中心とする公共交通ネットワークの形成と歩行者・自転車ネットワークの形成 地区拠点における乗り継ぎ機能の強化
事業実施状況	- 平成 26 年 9 月に小牧駅周辺の利用実態調査を行い、駅の交通結節点としての利用状況の把握や施設需要などの推計を行った。 - 平成 27 年 3 月に整備に関する市民アンケート調査を実施した。
達成状況	○
施策実施の効果 ・達成できない理由	利用実態調査により、現状の駅周辺の実態を把握するとともに、将来の施設需要を把握した。また、市民アンケート調査により、市民のニーズを把握し、整備に関する検討を行った。
今後に向けた課題 ・取り組み内容	小牧駅西駅前広場の整備については、新小牧市立図書館建設審議会での議論を踏まえ、駅利用者への影響や経済性等を考慮し、関係機関との協議を行いながら、広場整備や歩行者動線整備の検討を行う。 また、駅東駅前広場及び駅東公園などの整備については、桃花台線インフラ（小牧駅舎）撤去の施工期間や施工方法、仮設バスターミナル等の配置などについて、愛知県と調整を図りながら、桃花台線小牧駅舎跡地を含めた整備の検討を行う。

図 小牧駅周辺地区



重点プロジェクト名	桃花台地区においてトランジットセンターの整備を進める。 (高速バスや基幹バスとの結節点としての機能強化を図る。)
基本目標	集約型市街地形成を支援する交通体系の構築
基本方針	地区拠点を中心とする公共交通ネットワークの形成と歩行者・自転車ネットワークの形成 地区拠点における乗り継ぎ機能の強化
事業実施状況	- 平成 25 年 3 月に、桃花台線旧車両基地用地内に、中央道高速バス利用者の送迎用として、中央道桃花台バス停前ロータリー、自転車等駐車場及びパークアンドライド駐車場を整備（供用開始）した。 - 平成 28 年 4 月に、中央道桃花台バス停前ロータリー内にこまき巡回バス停留場を設置した。
達成状況	◎
施策実施の効果 ・ 達成できない理由	中央道桃花台バス停、自転車等駐車場及びパークアンドライド駐車場は一定の利用者（平成 27 年度：99,474 人（バス停）、7,607 人（駐車場））が確保されている。
今後に向けた課題 ・ 取り組み内容	中央道桃花台バス停の継続的な利用促進を進める。

図 中央道桃花台バス停前ロータリー



図 自転車等駐車場



重点プロジェクト名	名鉄小牧線各駅（小牧駅を除く） において交通結節機能の強化を図る。
基本目標	集約型市街地形成を支援する交通体系の構築
基本方針	地区拠点を中心とする公共交通ネットワークの形成と歩行者・自転車ネットワークの形成 地区拠点における乗り継ぎ機能の強化
事業実施状況	・田県神社前駅西駅前広場の整備については、計画どおり事業が進捗しており、平成27年度に用地買収が完了した。平成28年度に駅前広場の整備工事に着手しており、平成29年3月の供用開始を目標に工事の進捗を図る。 ・平成29年4月に、田県神社前駅西駅前広場内にこまき巡回バス停留所を設置するよう調整を図る。
達成状況	○
施策実施の効果 ・達成できない理由	バスロータリーや駐輪場を整備することにより、最寄駅や最寄バス停まで便利かつ安全に行くことができ、公共交通が利用しやすくなった。
今後に向けた課題 ・取り組み内容	小牧口駅における駅前広場の整備を図る。

図 田県神社前駅西駅前広場の整備イメージ



重点プロジェクト名	自発的な行動の変化を導くため、コミュニケーションを中心とした交通施策であるモビリティ・マネジメントを展開していく。
基本目標	自動車交通に偏りすぎない環境にやさしい交通体系の構築
基本方針	モビリティ・マネジメントによる公共交通等への利用転換施策の展開
事業実施状況	・公共交通利用促進協議会が主体となって交通事業者と連携し、時刻表の配布やバスの乗り方教室を開催した。 ・東田中地区において、まちづくり出前講座『わたしたちの暮らしと公共交通』を開催し、公共交通をPRした。
達成状況	○
施策実施の効果 ・達成できない理由	企業・職場や学校教育におけるモビリティ・マネジメントが実施されていない。
今後に向けた課題 ・取り組み内容	モビリティ・マネジメントを継続的に実施する。

図 まちづくり出前講座『わたしたちの暮らしと公共交通』の説明資料（抜粋）



重点プロジェクト名	地域住民の参画による、地域住民の生活ニーズに応じた巡回バスの見直し及び評価を実施する。
基本目標	行政による必要最低限の交通サービスの提供
基本方針	巡回バス等によるシビルミニマムとしての効率の良い交通サービスの提供
事業実施状況	・こまき巡回バスの路線再編時に公共交通地域懇談会を開催し、地域住民のニーズを把握した。 ・こまき巡回バスの路線再編により交通空白地を経由する路線を運行した。
達成状況	◎
施策実施の効果 ・達成できない理由	地域懇談会を開催し、住民の意見を把握した上でこまき巡回バスの路線再編を行った。 こまき巡回バスの路線再編により交通空白地を経由する路線を運行した。 デマンド交通実証実験運行の利用状況、利用者及び沿線住民を対象としたアンケート、公共交通地域懇談会の結果を踏まえ、運行経費や想定利用者数、運行特性など様々な観点から比較検討した結果、平成28年4月の再編にあたっては、北部地区と東部地区については、こまき巡回バスによる定時定路線方式の交通システムが適していると判断した。
今後に向けた課題 ・取り組み内容	利用者ニーズを踏まえた運行を継続する。

図 地域懇談会の様子



図 こまき巡回バスのキャラバン車両



重点プロジェクト名	地域住民の参画による、デマンド運行等地域独自の交通システムの試験的導入を実施する。
基本目標	地域の特性を踏まえた交通体系の構築
基本方針	地域の特性に応じた交通ネットワークとまちづくりが一体となった交通施設整備の推進
事業実施状況	- 平成 25 年 8 月～平成 26 年 7 月に、北部地区と東部地区において、デマンド交通の実証実験運行を実施した。 - デマンド交通の運行形態は、エリア限定の自由経路ミーティングポイント型であったが、平成 26 年 2 月からは自宅前での乗降が可能となった。
達成状況	◎
施策実施の効果 ・達成できない理由	デマンド交通実証実験運行の利用状況、利用者及び沿線住民を対象としたアンケート、公共交通地域懇談会の結果を踏まえ、運行経費や想定利用者数、運行特性など様々な観点から比較検討した結果、平成 28 年 4 月の再編にあたっては、北部地区と東部地区については、こまき巡回バスによる定時定路線方式の交通システムが適していると判断した。
今後に向けた課題 ・取り組み内容	デマンド交通は、福祉的な交通手段としての可能性や支線系路線の利用者が少ない場合の代替となり得るため、このような目的で交通システムを運行する場合においては検討を行う。

図 デマンド交通の運行車両



図 実証実験運行の PR チラシ

